

道ばたに見る夏・秋の草たち 市街地の生きもの 広瀬重夫

そのほかの単子葉植物



イネやカヤツリグサのように線形の葉でなく、幅広く、短いものもありますが、葉脈は必ず平行脈で双子葉植物のように網目状にはなりません。葉の形だけでなく、葉脈にも注意します。



写真 2 8 2、ツククサ
9月、住吉川



写真 2 8 3、ツククサ
9月、住吉川

■ ツククサ

朝早く咲いて、正午ごろまでには閉じる短命な花です。群れ咲いているところ（写真 2 8 2）は目の覚めるような新鮮さがあり、知らない人はいません。

茎の先に 2 枚貝の貝殻のような形をした苞葉（ほうよう）があります。花びらは、苞葉の上によく目立つ藍色の 2 枚と、間に小さい膜質の 1 枚で計 3 枚、また、苞葉の反対の下側に、膜質で目立たないがくが 3 枚あります。おしべは長く突き出た 2 本と、そのすぐ上に短い 4 本があり、計 6 本です。このように単子葉植物の多くは、花のつくりが 3 の倍数になっています（写真 2 8 3）。

めしべは長いおしべの間に 1 本だけ伸び出しています。

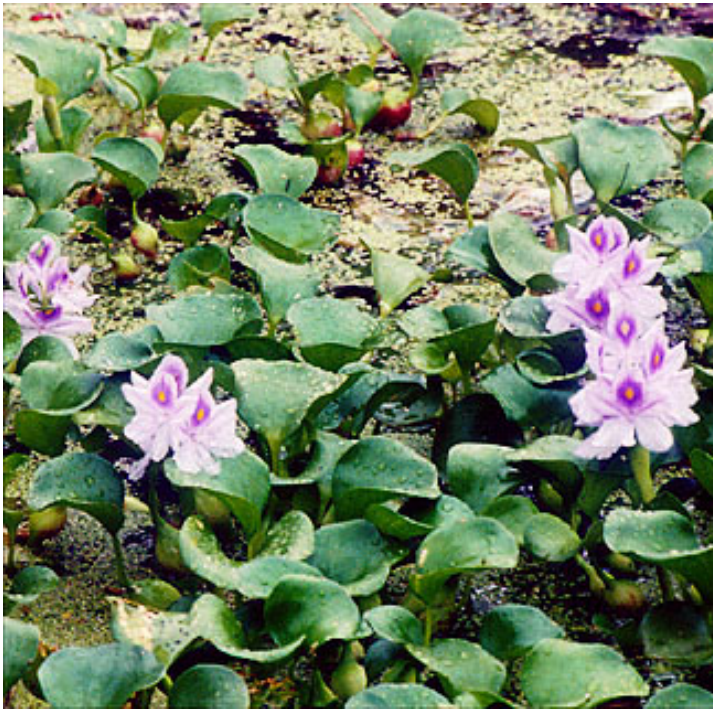


写真 2 8 4、ホテアオイ
8 月、西舞子 4



写真 2 8 5、タカサゴユリ
8 月、松風台

■ ホテアオイ

池や流れのよどんだところに生えるホテアオイは、熱帯アメリカ原産の多年草で、観賞用として移入されたものが野生化しています（写真 2 8 4）。

葉柄のもとの方が丸く膨らんで浮き袋となり、根元からつる状の枝を延ばして子株をつくり、あっという間に大群落をつくれます。

水に有機物（草の栄養分）が豊富なところでよく増えますので、これが多いところは水の汚れがひどい、ということです。

■ タカサゴユリ

道路や集合住宅などの法面（のりめん）に群生していることがあります（写真 2 8 5）。台湾原産の多年草で、地下に鱗茎（りんけい：タマネギ状）を持っています。種子でも繁殖し、大きな群落をつくる場合がありますが、年により見られなくなることもあります。

■ ネジバナ

ビルの谷間の芝生地にまとまって生えていました。ラン科の多年草です(写真286)。

花は右か左にねじれて咲きあがっていきます。根は菌類と共生し、養分のやりとりをします。



写真286、ネジバナ
6月、浜辺通

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)